

あなたのそばで
夢みる数字新聞

特集 「動物」

連載6回目となる今回のテーマは「動物」です。地球上には、人間とはまったく別の世界で、豊かな命の営みを続けている野生動物がいます。また、人間と共に暮らし、素晴らしいパートナーになってくれる身近な動物たちもいます。あらゆる動物たちに、尊敬の気持ちを込めて。

インタビュー

作家 乙武洋匡さん

水場が多い神奈川県が大好きで、鎌倉・鶴沼・三浦半島などに週に一度は訪れるという乙武さん。動物との暮らしや責任、そして子どもの夢などについて伺いました！

いろんな生命が
かがやいてる世界

今

回のポスターの写真は、横浜の動物園『ズーラシア』で撮影しました。「8」km先にいる仲間と、超低音で会話ができるゾウもいるように、素晴らしい個性を持ったさまざまな動物たち。その数は、確認されているほ乳類だけでも「5487」種！しかし、自然環境の変化によって、その数は少しずつ減少し、4分の1は絶滅の危機に瀕しているといわれています。この現状を踏まえ、日本政府は9月からの国連総会で「地球上の生物の種がこれ以上失われぬよう、多様な命を守る取り組みを国際社会全体で行ってほしい」という提案を行います。また、秋に名古屋で開催される生物多様性条約第10回締約国会議「COP10」でも、この問題が話し合われる予定です。自分たちの国から世界に発信するメッセージに、みんなで注目しましょう。

ズーラシア <http://www.zoorasia.org/>

おしえて! 夢みる値段

このコーナーでは、特集にまつわる「夢みる値段」を、ちょっと詳しくご紹介します！

[2,300,000円]

今回、ポスターで取り上げているのは、一匹の犬と暮らすときにかかる平均的な費用。犬の一生は14年くらいといわれます。その間、ごはん代だけでなく、医療費や、美容関係にもおかねは必要です。家族のように、かけがえのない存在になってくれる動物たち。長い目でよく考えて、責任を持って迎え入れましょう。

「動物と暮らしてみたい」という夢を持つ人は多いはず。動物と接することは、私たちの生活をより楽しくしてくれたり、私たちを成長させてくれます。ぜひ、夢といっしょに、おかねのことも考えていきましょう。

さらに、たとえばこんな値段

[5,000円]

「横浜市動物園友の会」を知っていますか？これは、みんなで動物園のサポーターになるう！という制度で、会費5,000円の＜家族会員＞になると、よこはま動物園ズーラシア、金沢動物園に、1年間で12回、無料で入園できる特典がついてきます！（野毛山動物園は入園無料）お気に入りの動物たちに、何度も会いに行く。そんな楽しみ方もありますね。

お問い合わせ：横浜市動物園 友の会事務局 Tel 045-959-1000

それゆけ! 撮影隊



今回モデルになってくれたのは、横浜市都筑区に住む小学1年生のはると君です。晴れた日の逗子海岸。お兄ちゃんのゆうき君、逗子の犬の保護団体である『one☆paw』の皆さん、そして大勢のワンちゃん達が見守る中での、楽しい撮影となりました。

表紙と店頭ポスターの撮影：本城直季
1978年生まれ。写真家。ミニチュアのように撮影する独自の手法で知られる。写真集『small planet』で第32回「木村伊兵衛写真賞」受賞。

美

しい毛並みをなびかせ、モデル犬として登場してくれたレオ君は、平塚の「神奈川県動物保護センター」で保護され、動物愛護団体を通じて飼い主の宅間さんの所にやってきました。迷子犬や「飼えなくなった」と持ち込まれた犬たちは、施設の職員の努力により新しい家族との出会いが模索されています。平成20年度、神奈川県で譲渡された犬の数は568頭。それに対し引き取り手が見つからず処分された犬の数は737頭で、日本全体では、年間約8万頭の犬たちが命を絶たれています。横浜市や県の保護センターでは犬の譲渡活動をおこなっています。犬との出会い方、考えてみませんか。



ただのいぬ。保護された犬の運命を考えるアート活動を展開する「ただのいぬプロジェクト」。公式サイトから犬の譲渡施設等についての情報が得られます。<http://www.tadanoinu.com/>

譲渡犬ってご存知ですか？

ミニチュアダックスを飼っていらっしゃるそうですね。

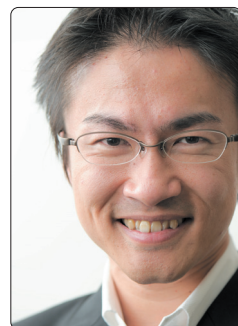
シャンティという名前で、6歳になります。僕は結婚するまで動物とふれあう機会がほとんどありませんでした。だから妻が、知人が飼えなくなってしまったシャンティを引き取りたいと言ったときも、最初は反対。動物が家の中にいることが想像できなかったし、飼うのであれば、散歩や食事の世話など相当な覚悟がいるところ。ところが、いざ家に来てくれたらかわいくて。覚悟を決めて引き取るのができて、よかったですと思っています。

とても良いステップになりました。今、動物に対する、人間の責任が問われています。今年の3月まで小学校の教師として、3・4年生の担任をしていました。ある日、クラスで飼っていた亀が突然死んでしまっ。その時は、「また生き物を飼いたい」を学級会で話し合いました。時間をかけて議論をして、最後は全員一致で、金魚を飼うことになりました。動物を飼うことは、命を守り、命を育てていくこと。僕達はその命に責任が持てるのか、これからもずっと考えていかなければならないと思います。

打てれば、間違いなくフォアボールで出られるな、とか(笑)。でも夢って状況や成長とともに軌道修正されていくもの。だから、子どもには色々な経験を積ませてあげたいし、夢を急かさないであげたいです。まずは身近な目標を見つけて達成していく。プロセスを経験させてあげたい。あと、身近にいる大人たちが日々楽しそうに過ごす姿を見せることも大切だと思います。

二十代で結婚したのですが、お互いが未熟だった時期に動物と暮らし始めたことは、その後、自分の子どもを育てる上でとても貴重な経験でした。こういう身体なので物理的にしてあげられることは少ないし、これまでも人に何かをしてもらうことの方が多かったのですが、精神的な面で、誰かを気にかけて世話をする存在になりたい、と自覚できたことが、

お父さんでもある乙武さん。子どもの夢のこと、どう考えですか。僕の小さい頃の夢は、プロ野球選手でした。当然こんな身体だからならぬわけない。非現実的なんですけど、僕は現実的に考えてました。九回、負けている場面で先頭バッターを出塁させて。そんな時、ストライクゾーンが人より狭い僕が代



おとたけひろただ 大学在学中、自身の経験をユーモラスに綴った『五体不満足』が500万部を超えるベストセラーに。その後、キャスター、スポーツライターとしても幅広く活動。現在は、教育現場で得た経験をメディアを通して積極的に発信している。